

岡山県子ども・子育て会議 議事概要

(開催要領)

- 1 開催日時：令和元年5月24日(金) 10:00～12:00
- 2 場所：県庁3階大会議室
- 3 出席委員名(計14名、敬称略)
糸山 嘉彦、奥田 直子、亀山 誠子、神田 敏和、佐藤 和順、武本 吉正、
鳥越 範博、中村 敏恵、中山 芳一、則武 直美、服部 剛司、光岡美恵子、
山口 哲史、山下 芳枝

【議事概要】

<議題>

- 議題1 「岡山いきいき子どもプラン2020」(仮称)の策定について
議題2 結婚、出産、子育てに関する県民意識調査の結果(概要)について

(桑原子ども未来課長)

資料1に基づき説明

(中国地域創造研究センター(以下「中国創研」))

資料2に基づき説明

○発言要旨

(委員)

図4-2の子育ての幸福感別にみた理想の子どもの数は、例えば今現在1人だけど将来的には3人ほしいというグラフですか。

また、図4-1・3で、子育ての幸福感と負担感・不安感という対比だが、例えば負担感・不安感の時には、「子育ては、つらく、負担になることが多い」という言い方で、幸福感の時には、「子育てをされていて幸せを感じる」という言い方だが、これを揃えて、「子育てをされていて幸せを感じるが多い」となった場合、値がまた変化するのではないのでしょうか。

(中国創研)

図4-2は、子育て世帯にアンケート調査をしており、0歳～9歳までの子どもをもつ、少なくとも1人は子どもがおられます。理想の子どもの数なので、将来の数字です。

図4-3について、実は、時系列でデータを追っていて、過去の調査とできるだけ揃えたいということがあります。あと、国などの調査が同じような質問をしていて、そこと合わせて、将来いろんな分析の注文が出てきた時に合わせられるようにという配慮があり、こういった表現になっていますが、おっしゃるようにできれば表現を合わせることができればよかったですかなと思います。

(委員)

1 2 ページについて、利他、利己という言い方よりはむしろ他己的、自己的と言ったほうがいいかなと感じました。

また、負担感・不安感が2つに分かれてしまっている時点で、この4分割が正確に機能していないと思います。例えば利他的負担感・不安感が上にあって、利己的負担感・不安感が下にあるなら正式に機能しているように思うのですが。

(中国創研)

統計的な因子分析で分けていますが、負担感と不安感を分けてなくて、後で名前をつけた時に負担感・不安感という風に分けたということです。幸福感も実は1つ、負担感・不安感も1つ。負担感・不安感全体でプールして分析をしているので、最初に分けてやっている訳ではありません。いろんなネーミングの仕方があると思いますが、みんなで検討した結果という風にご理解いただきたい。

(委員)

幸福感が2つに分かれているが、ここが例えば「子どもとのふれあい」と「仕事や生活の張り合い」というのは、時としてセットになるというか、合計的な関係になる部分もあると思うのですが。

(中国創研)

さらに分析していくと、きっとそういった関係も出るだろうと思う。最初の字句としてまずは分かれている、その次に少しずつ相互の相関なども出てくるとは思うが、まずは最初に1回目を2つに分かれたという風に理解していただければと思います。

(委員)

図3-5で、交際状況に地域差があって、県全体の有配偶率を低下させる要因という風に出ているが、備前・備中・美作で分けるよりも人口によって分けた方が、こちらとしては差があることがわかる。例えば備前でも岡山市や赤磐市、吉備中央町だったら人口が大きく変わってくるので。

(中国創研)

おっしゃるとおりわかりにくいかもしれない。交際状況に地域差があって、県全体の有配偶率を低下させる要因の一つという文章だと思うが、要するに美作が低いから県全体を低くしているということではなくて、地域にズレがあることが県全体の有配偶率を低めているというそういった意味です。

(委員)

資料1について、2015年版とどこが大きく変わっているかと言うと、1つはローマ数字の大きい項目の出る順番が、ライフステージに応じた施策の体系になっています。出会い、結婚、妊娠、出産、子育て期という風に分けて、ライフステージごとに示した方が、県民のみなさまにもわかっていただきやすいのではないかと思います。

ことで、現在このような並びにしています。

(委員)

「Ⅳ きめ細やかなサポートが必要な子どもや家庭の支援」と「Ⅲ 子どもと若者の成長を支援する環境の充実」というのが、前回のもそうだが、基本的にはⅢの大項目の中に、本来Ⅳは入ってもいいですね。そして、Ⅲに該当する子どもたちにもきめ細やかなサポートは必要だと思うので、Ⅳはむしろ「特別なニーズのある」という言い方にしたほうがいいと思うのですが。

(桑原子ども未来課長)

今回は結婚、乳幼児期、子育て期の3つに分けていて、おっしゃられたように特別な、どちらかというと弱い立場の人たち、その部分をだいたいⅣにまとめたつもりですが、言い方として「きめ細やかな」より「特別な」というようなよりよい言葉があるのであれば、今回ご意見いただいて、また次の素案の時にいろいろ考えていきたい。

(委員)

ぜひご検討ください。

(委員)

要は「Ⅲ 子どもと若者の成長を支援する環境の充実」に全ての子どもが含まれるが、さらにその中で特別なニーズだとか特別なきめ細やかなサービスがいる子どもたちを抽出してⅣに出している、ということですよ。

(委員)

図5-6で、子ども観別にみた理想の子ども数では、実際回答をした方自身兄弟数が多いとか、そういうこととの相関があったのかが気になります。あと、1つ意見として、私が岡山市に住んでいた時に、赤ちゃん体験というか中学生の子に赤ちゃんをだっこしてもらったり、遊んでもらったりした経験をしているが、それがすごく良かったので、県全体でしてもらえたらと思います。すごく中学生の子たちも喜んでくれたし、私達も外に出て気分転換になったので。

(委員)

いわゆる赤ちゃん先生事業みたいなことですかね。高校生の話は、具体的には資料でいえばどれになりますか。

(委員)

資料2の21ページ図5-6ですが、子どもがいたら生活が楽しく豊かになると思うというところで、理想の子ども数を3人と答えられた方は、実際に自分が兄弟が多いのかとか、そういうところに関係しているのか。

(中国創研)

委員のおっしゃるように、図5-8で子どもがいたら生活が楽しく豊かになるということに対して、「とてもそう思う」とか「そう思う」で聞いていますが、下の注を見てくださいと子ども経験とあって、過去に高校生が小さい子どもと触れ合う機会がよくある、周りに3人以上の子どもをもつ夫婦が多いというのが縦軸になって、それが少ない・やや少ない・やや多い・多いという風に4段階に分かれています。そういったことが多い高校生は、男子も女子も明らかに子どもがいたら生活が楽しくなるというように思う回答が多いということなので、先程の政策につながるような回答だろうと思います。

(桑原子ども未来課長)

高校生なり若い方が子どもと触れ合える機会が多い施策として、岡山県は保育士の養成施設が多い県で21施設ありますが、その保育士養成施設と連携して、大学生とか保育士を目指している人と子どもと触れ合う機会を大学等に作って、そこに地域の人も集まって一緒に触れ合える、そんな事業を現在やっています。

(國富健康推進課総括参事)

地域ではぐくむ思春期の心とからだの健康支援事業を県内の愛育委員会でそれぞれ実施していて、その中のメニューの1つになっているが、地域によっては愛育委員が学校と調整したりしながら、中高生と赤ちゃんが触れ合うような事業をしていただいている。全市町村同じように毎年全ての中学・高校でできている所ばかりではないが、この事業を活用してそれぞれ学校の方に、今おっしゃったようなことを愛育委員の活動を通じてしていただいています。

(委員)

いろんなところと連携をとっていただきたい。

(委員)

子どもと関わるそういった体験的な授業なり、そういったものを何か可能であれば盛り込んでいただくとか、そういった方向性でまたご検討いただければと思います。

(委員)

ここで社会的養育となっていますが、数年前までは社会的養護とって、児童養護施設や里親にいる子どもたちの支援ということで挙がっていたと思います。今社会的養育という言葉になったのは、社会的養護の下にいる子どもだけでなく、全ての子どもについて考えましょうというメッセージが込められていて、先程委員がおっしゃったように、Ⅲのところは全部入れればいいんじゃないかとそういう考え方はまさにその通りだなと思いました。

私は児童養護施設で働いていますが、そういう弱い立場にある子どもたちあるいはその子どもの家庭は、社会から孤立しがちな家庭が多かったりします。そういう特別なニーズのある子どもやそのご家庭への支援というところを充実することによって、

県全体の子どもたちへの支援というものが更に分厚いものになっていけばいいなど考えているので、よろしくお願ひしたい。

あと1つ、「Vワーク・ライフ・バランスと子育てにやさしい環境づくりの推進」の、子育てにやさしいというところが、子育て家庭にやさしいという意味で書かれているのか、例えば全ての子どもにやさしいという意味で書かれているのか、このあたりが少し分かりづらかったです。

(委員)

それはまたご意見として事務局の方に伝えるということでしょうか。

(委員)

今後プランを作るにあたり、目標事務量の設定や数値目標の項目を設定されると思いますが、例えば2015のプランで結婚サポーターの登録人数が平成31年1,200人となっています。次期プランの骨子で「結婚を希望する若者の希望を叶える環境づくりの推進」と深く関わると思うが、このあたり現状がどうなっているのか。これ以外の数値目標の項目は考えられているのか。

私の職場でも、子育て中の方が何を困っているかと言うと、子どもが熱が出たと言って結局仕事中に保育園へ迎えに行くというのが最近非常に目立っていて、病児の預かりというのはやっぱりもう緊急課題ではないかと個人的には思っています。この「ワーク・ライフ・バランスと子育てにやさしい環境づくり」での「子育てと仕事が両立できる環境整備」において、この病児の預かりの施設がどれだけ増えるかというのは、やはり今後の課題と思うので、そのあたりも数値目標にぜひ入れていただければと思います。

(桑原子ども未来課長)

結婚サポーターの人数は現在300人ぐらいであるが、結婚支援を始めた時に、いわゆる仲人さんのような人を想定して1,200人という目標を作っていた。その後、県でマッチングシステムというのを新たに立ち上げて、今そちらを中心に結婚支援をやっています。ということで、ちょっと役割が変わってきたところがあって、目標には達していないので、この度のプランの改定に合わせて改めて見直し、皆様のご意見を伺いながら考えていきたいと思っています。

また、病児保育の件は、昨年度一応県内全市町村で病児保育をする体制が整いました。さらに充実しないといけないというのもあると思うが、現状では全市町村が使えるようになっています。

(委員)

保育所を取り巻く環境はそんなに変わっていません。保育ニーズの高まりと子育て支援の保育士が足りないということが一番であって、質の問題も保育士が足りないから質が下がるというような心配をさせていただいているので、養成校から保育士を目指す生徒は、岡山県の保育所へ就職していただけるように、ほとんどの養成校の生徒が保育士を目指していただくように頑張っていただきたいと思います。それから私が一番心配する

のは、やはり子どもの出生です。赤ちゃんが産まれないことには私達の仕事はないので、とにかく子どもが岡山県で1人でもたくさん産まれるというような施策を徹底してやっていただきたい。未だに市町村の格差もあるが、どの市町村も子どもが少しでも産まれていくというような状況になっていけばいいなと考えている。いろんな課題が山積していて、県においてもいろいろな意味での考えを持って進めていただいているが、現場としてこれからも県へ対していろいろな意味でお願いを申し上げていきたい。

(委員)

この無償化に際して、保護者がどういったところでこの無償化の利点を得るのか、非常に難しい構造です。保育の部分は無償化になった、預かり保育の部分は少しお金がかかるとか。「2 幼児期の保育サービスの充実等」のところで、ある程度図式化をして、保護者は何を申請するのか、園側は何を提供するのか、ここがきちんとわからなければ、皆様方これを十分に活用していくことは今後非常に難しいと思うので、分かりやすい表記が必要かと思います。また、「幼児期の」となっているが、乳幼児期とした方が表記としていいのではと思います。上が「Ⅱ 乳幼児」となっているので、「2 乳幼児期」という表記にされた方がいいかなと。

(委員)

そのへんはまた意見として伺わしてもらおう。

(桑原子ども未来課長)

先程の保育士確保の件ですが、養成校でだいたい年間県内で卒業者が1,200人ぐらい、それから資格取得する人が1,100人ぐらい、だいたい就職する方が6割弱というような状況です。県としても、養成校と連携して、例えば学生に保育園へ行って体験してもらおうとか、そういった研修とか、体験してもらってその楽しさを知るみたいな機会を作る事業をやっています。

また、子ども未来課内に保育士・保育所支援センターというマッチング機関を作っていて、そこに潜在保育士に登録してもらって、保育士を採用したい方とのマッチングする事業をやっています。昨年度70人程度マッチングができました。ただ、保育士がまだまだ足りないということも委員がおっしゃられたとおりでと思いますので、さらに県として頑張っって参りたい。

それから無償化について、非常に制度が分かりにくいというのは、本当におっしゃるとおりだと思います。今月法律が成立して、今月中に国の県に対する説明会があり、来月には県が市町村向けに説明会をしたいと考えている。そういう所を通じて、市町村の方々にもできる限り分かりやすい説明をしていただくようお願いしていきたいと考えている。

(委員)

病児保育を瀬戸内市でやっていて、我々がやる場合にやはり看護師の確保というのが非常に難しく、経営的に言うと、常に1年間看護師を確保していると、インフルエンザとかが流行っているときにはたくさん園児が来ていいが、全く病児がいない時期

というのは余分に人を確保していかないといけない。そういったこともあり、なかなかたくさん受け入れるということができない状況にあるので、病院ともう少し密接に連携して、病院の横とか、そういった看護師がいつもおられるような所のできるような柔軟な体制がとれば困ることもなくなるかなと思う。

慣れ親しんだ保育園でみてもらうのが保護者としてはいいが、なかなか看護師を集められない園が多く、看護師の確保というところも苦労しているので、そういったところも次期プランにいられていただくとありがたい。

(桑原子ども未来課長)

病児保育の具体的な部分は市町村が担っております。市町村ごとにいろいろ地域の事情が違うと思うので、県としてはそこら辺のニーズを聞きながら支援していきたい。

(委員)

先程委員がおっしゃられたように、待機児童の数＝保育士が少ないというところが一番大きいのではないかと考えていて、新たに保育士としてやりたいという方はおられると思うが、私はやっぱり潜在保育士の確保というのが大きいと思っているので、次期プランに入っているのか伺いたい。

あと、「IV 3 障害のある子どもへの施策の充実」という部分が前回にもあったと思うが、発達障害の子どもが増えているので、前回と変わらず同じような感じで入っているのか。また、発達障害とかいろんな知識は保育士や幼稚園教諭にとっても必要なことであって、研修とかをもちろん受けているとは思いますが、その研修や勉強会などが必要ではないかと思うので、この部分も前回と比べて大切な部分だと思います。

(桑原子ども未来課長)

潜在保育士の件ですが、現状県内で保育士の登録者数がだいたい 27,000 人、実際に働いている人が 7,700 人ぐらいなので、おっしゃられたように潜在保育士の方がかなりたくさんおられる状況だと思います。

先ほども申し上げましたが、子ども未来課内に保育士・保育所支援センターというのを作っていて、そこでマッチングする事業をしております。今まではハローワークから求人票をもらって県で情報をもっていたが、今年度からは保育所から直接もらうようにしたことにより、勤務条件とかをかなり細かく教えてもらえるので、保育士で働きたいという方と、保育所とのニーズをよりきめ細やかにマッチングして、潜在保育士になるべく働いてもらうよう誘導していきたいと思っています。無償化になって保育需要も増大していくことも予想されているので、ここについては県としても次期プランでしっかり書いていきたいと考えています。

障害児の件ですが、保育士向けに研修は行っています。財政制度としては、交付税措置で、障害者を受け入れた場合には、市町村に加配措置、加算されるようになっていて、そういった制度も含めて市町村でも認識してもらい、充実していくことが大事だと考えています。

(委員)

保育士復帰に尻込みされている理由というのは、実際にどんなことでしょうか？

(委員)

やはり持ち帰りとか家ですることが負担で、子育てをしながら自分ができるのかと言ったら、歪みが子どもたちになってしまうというのが一番気になります。私の個人的な考えですが、周りの意見とかも聞くと、先生というのは、書類もあるし現場のことも準備がたくさんあると思うので、土曜日に1日かけて1週間の準備をまとめてすることで次の週が成り立つ。普段はちょっとなかなか。

(委員)

岡山県教職員組合の組合員には公立幼稚園の先生もたくさんいます。その先生の幼稚園の状況を聞いていたら、まさに先程話が出てきているように、人が足りない、なので臨時の人をたくさん雇うけれども、どんどん辞めていく。そうすると、正規職員のところにしわ寄せがきて、倉敷で言うと多い年には正規職員の1割が退職するという、公務員としては驚くべき退職率です。

臨時の人が辞める理由というのは、責任の度合い、それから勤務実態の度合いに処遇が応じていない。ですから、最近それぞれの市町村では、保育士の処遇を改善するために、補助金のようなものを出している。あれはかなり効果があるように思っているのですが、県が財政負担をして、市町村に加えてさらにそういった補助金を出すとかいうのを可能なら検討してほしいが、そういう状況でないということなら、また別な方法を考えないといけない。そうすると、先程出たようなマッチングみたいなことしか県としてはなかなかできることがないという問題点があるかなと思います。

先程病児保育の話も出ましたが、保育園に預けていても、ちょっと熱が出たらすぐ呼び出しがかかって迎えに行かないといけないというのは、会社にも負担をかけるし、それから親にも負担がかかる。今本当に困っている状況があると思う。ぜひこの病児保育の問題、それから保育士が足りないという問題を何とか県として解決できる方法をみなさんと共に考えたいと思っています。

(委員)

意見ということでよろしいか。

潜在保育士の復職のためのいろんな事業をしていただいているのを存じているが、もう少し機能的になるようにまたご検討いただいて、そして可能であれば次期プランに反映していただければと思います。

(委員)

社会全体で子育てをするということで、小学校や中学校でも地域の方が多くボランティアとかで入られて、今盛んに行われているが、結局高齢の方が中心で多く参加していただいている現状があって、それは働いている私達や保護者にしても、なかなかボランティアまで参加できないというのもあります。今後どんどん働く年齢

も上がっていくような現状にあると思うが、そうなっていった時に、地域で子育て支援していただける人がいてもらえるか、今後どうなるのかちょっと不安な部分があります。

逆に私ども親の世代の人間が、どれだけワーク・ライフ・バランスで、今働き方改革とかで働く時間が短くなるようにというような動きもあるが、うまくバランスを取りながら、そういったところにも時間を使っていったりできるような動きが進めばいいというのは願望としてあります。そういった中で、プランにある子育て支援の何かそういった部分でも取り組みをしていただければと思います。

(委員)

ご意見としてまたよろしく申し上げます。

(委員)

先程から話が出ていましたが、若い頃から赤ちゃんといると、できれば子どもがほしいなというような気持ちを持つということで、市町によっては愛育委員の方でそういう事業をされているところもあります。

私はこの立場から地域のいろんな所へ、例えば、学習支援、あるいは放課後児童クラブ、そういうところの運営委員にも顔を出させていただいています。希望者が多いが、定員があるからお断りすることもあります。その原因と言うのは、設備もそうですが指導員がというような場合もあります。この間の事故のようなことがあると、指導員もものすごく構えるので、研修もしっかりしないといけないし、どういう風にするかという質の向上もあると思います。そのあたりいろいろと課題を見つけて、たくさん考えて、地域へ持ち帰って少しずつでもさせていただきたいと思っています。

(委員)

岡山いきいき子どもプラン2015を今後見直すために、保育現場から5つほどのお願いを簡単に申し上げておくので、考えていただきたい。保育ニーズの高まりにより、待機児童の対策を一生懸命5年間で考えていただきたいということ。そして、保育士・保育教諭等の人材確保のために処遇改善を徹底的に考えていただきたい。待機児童の解消ももちろんであります。地域子ども子育て支援や多様なニーズへの課題の対応も考えてください。

幼児教育の無償化に伴います諸問題が今年10月から起きてくると思いますので、こまごまとした事務関係を県と市町村がどのように考えてくださいますか、お考えを賜りたいと思います。

子どもが産まれることが一番であります。子どもプランの中へは、保育所の立場として今簡単に申し上げたことを少しずつでも取り組んでいただきたいと思います。

(委員)

昨今小学生の児童の虐待死などの報道もあり、学校現場は今非常にナーバスにな

っておられると思うのですが、私達も母子保健の立場、また子育て世代包括支援センターとも連携が非常に重要だと思っております。ただ、私達の最近の感触としましては、幼稚園までは割と親御さんの顔がすごく見えて、密接な関係で保健師が寄り添ってフォローできるのですが、小学校に上がるとだんだんと薄くなっていくという実感をもっております。

特にDVの問題、夫婦間の問題や家族の問題それが子どもにいろいろな影響を及ぼしていて、子どもたちは悩みを抱えながら頑張っている生活していると思います。そういうところに寄り添ってくれる、例えばスクールソーシャルワーカーとか臨床心理士の確保が十分できているのかなと思います。学校も非常にあえいでおられて、私達も児童虐待の通告等がありましたら、そのあたりの連携が非常に重要だと思っておりますので、今後、やはり教育現場における児童虐待の対応が十分できるような体制を、ぜひ県レベルで見えるような形でしていただければ、安心して市町村で虐待対応ができるのではないかなと思っておりますので、よろしく申し上げます。

(委員)

4月以降、子育ての現場を拝見する機会もあります。そうした中で、待機児童それから職員の処遇改善等の問題で、問題提起される場面も多々あり、他の委員も言われていましたが、なかなか職員がきちっとした体制で業務が行えない状態というのを耳にします。今、放課後児童クラブと公立保育園との関係の中で、職員が足りないから保育園の方に臨時で、という話が来たところでも、児童クラブにひっぱりられるというような状態もあったりして、なかなか職員が定着できないというところがあるようです。

そうした流れの中で、先程他の委員も言われていましたが、DVそれから発達支援、幼児の虐待、そういった問題がかなり毎日出てきていて、臨床心理士を1名正職で雇っておりますけど、その者が1日に何件も掛け持ちで社会福祉士同席の上で対応にあたる、という状況もあります。

とりあえずまずは、子どもを産んでよかったな、それから子育てって楽しいな、そういったものが前面に目に見える形でみなさんにお知らせができる計画、そうした中で、個々の部分の対応はきめ細やかな、こういう状態のことにはこういう対策、対応ができるんだとお示しができるような計画であっていただきたいと思います。

(委員)

本日いただいた意見を踏まえて、次回会議に現在の骨子案にちょっと肉付けをいただいて、計画素案をお示しいただくようになろうかと考えております。どうしてもこれは言うておかなければならないということは何かございますか。

(委員)

Ⅲは拡充が唯一ないですが、よいのでしょうか。さっきも学校教育の話が出ましたが、学校教育の部分でも拡充は特になくていいのか少し疑問に思います。

(委員)

大項目ごとに必ず1つ拡充がなければならないということはないと思いますが、またそういったご意見があったということ踏まえていただければ。あと、私は前回の打合せの時にもお伝えはしたのですが、前回プランからあれもこれも拡充で、どんどんプラン自体が大きくなってしまいうのもいいのかもしれませんが、もう少しこう焦点化して、メリハリをつけたような、そういった施策策定というのをぜひお願いしたいとお伝えしています。それが一番基本理念の、全ての子どもたちがということに集約されると思いますけれども、全ての子どもたちのために何を今後5年間していくのかということ視野に、事務局の方でご検討いただければと思っています。

議題3 その他

・平成30年7月豪雨災害対応「被災地域の子どもの安全・安心な居場所」事業報告書

(桑原子ども未来課長)

報告書作成について報告

(委員)

最後私の方から一言だけ、1つはEBPMサイクルですか、要は抽象的な結果に基づいていろんな施策をとというのが、今の国の流れだと思っております。岡山県も同じでございます。そういった意味で、今回の結婚、出産、子育てに関する県民意識調査の報告をしていただいたということは、すごく今後のこの会議においては重要であったかなと考えております。加えて、今後どういう風に持続可能な社会を作っていくのか、そういった視点もぜひ入れていただいて、今後の施策そういったものを作っていただければと思っております。

資料2の13ページでご担当の方からご説明がありましたが、施策へのアプローチで、子育て世帯の感情面に働きかけて、子育ての情緒的価値を高める、子育てというのはこんなに楽しいんだよということを、私達世代も大変大変と言わずに広めていくことも必要でしょうし、合計特殊出生率のことを考えると、若者が結婚をしたくなるような情勢も高めていく、そういったことが必要かなと思っております。

今後は、結婚はこんなにすばらしいんだよということをぜひ若い学生にも伝えて、そういった気運作り、これは私だけに限らず、子育ての楽しさだとか保育の楽しさ、いろんな仕事、いろんな立場での楽しさとか、そういったことも若い世代に伝えていただくこともぜひ委員のみなさんをお願いをしたい。

以上